

# 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

## ②施設・事業所情報

名称：	(本園)根岸星の子保育園 (分園)原町星の子保育園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	(本園・分園) 園長 荒川 敬子	定員(利用人数)：	(本園) 60 (74) 名 (分園) 45 (45) 名	
所在地：	(本園) 〒235-0005 神奈川県横浜市磯子区東町19-33 (分園) 〒235-0008 神奈川県横浜市磯子区原町14-2			
TEL：	(本園) 045-752-0222 (分園) 045-349-3130	ホームページ：	<a href="https://ozora-hoshinoko.com/">https://ozora-hoshinoko.com/</a>	
【施設・事業所の概要】				
解説年月日：	(本園・分園) 2006年4月1日			
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 大宙			
職員数	常勤職員：	(本園) 20 名 (分園) 9 名	非常勤職員：	(本園) 11 名 (分園) 9 名
	専門職員	保育士	(本園) 19 名 (分園) 11 名	栄養士
看護師		(本園) 2 名 (分園) 0 名	調理員	(本園) 3 名 (分園) 3 名
用務員		(本園) 1 名 (分園) 2 名	事務員	(本園) 3 名 (分園) 1 名
施設・設備の概要	居室数(本園)	保育室7室、調理室、事務室、休憩室、相談室、多目的トイレ	設備等(本園)	厨房用エレベーター、屋上園庭、園庭、畑、園庭シャワー、優先駐車場
	居室数(分園)	保育室5室、調理室、事務室、相談室、休憩室、乳児トイレ、幼児トイレ、多目的トイレ	設備等(分園)	沐浴台、園庭、園庭シャワー、優先駐車場

## ③理念・基本方針

- 【法人運営理念】
- ・子どもの個性を尊重し、慈愛の心で未来を担う子どもたちを育みます
  - ・保育の歴史をつなげて地域社会の貢献します
- 【保育方針】
- ・常に子どもの最善の幸福を願い、子どもを真ん中に、家族の皆様と手を携えて、共に育ち・歩み、子どもたちの成長を見守ります。
- 【保育目標】
- 「保育園で楽しい1日を過ごせる子に」
- ・人格形成の大切な乳幼児期に、遅く、心身共に健やかな根っこを育む。
  - ・基本的な社会生活が出来る子に  
(挨拶ができる・相手の話を聞く・自分のことは自分でやろうとする)
  - ・自ら考えて行動する・思い遣りの心を持ち友だちと一緒に遊ぶ)

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

法人理念「子どもの個性を尊重し慈愛の心で未来を担う子どもたちを育みます」「保育の歴史をつなげて地域社会に貢献します」のもと、子ども一人ひとりが大きな宇宙で瞬く星のように、個性を輝かせて育っていけるような保育を実践しています。

本園の根岸星の子保育園は0～5歳児まで、分園の原町星の子保育園は1～5歳児までを預かり、同じ理念実現を目ざし、子どもを真ん中に据えたさまざまな取り組みを行っています。

リトミックでは、専任講師の軽快なピアノの旋律にのせて、子どもたちは走る、跳ぶ、しゃがむなど全身を使って表現を楽しんでいます。体操教室では、健康な体を作り、けがから自分の身を守るように体育講師から指導を受けています。看護師による保健指導では職員が学び、適切な手洗い方法や検温の仕方などを保育に反映して、子どもたちが心身ともに健康に園生活を過ごせるよう支援しています。

給食の食材は有機農法の米(7分づき)をはじめ、みそ、塩も生産者から直接仕入れ、ほかの食材も吟味したものを使用しています。食育活動では、子どもたちには栽培したい野菜を聞き、裏庭の畑で種や苗からさつま芋やスイカ、トマト、ゴーヤ、とうもろこし、オクラ、パプリカなどを育てています。野菜が育っていく過程を観察し、収穫することで食への関心をさらに高め、仲間とともに食べることで苦手なものが「好き」に変わっていきます。魚の解体も行っています。園長自ら魚をさばき、舞い散るうろこがキラキラと輝く様子を子どもたちは目の当たりにして感動しています。

人とかかわるうえで欠かせない「挨拶」をコミュニケーションの第一歩と捉え、お辞儀の方法も含めて日々の保育の中で実践しています。また、園児のささくれが一つでも目に留まったら手当てをする細やかさと優しさを職員が示すことで、園児たちの気持ちの安定を図り、優しい心をはぐくんでいます。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月21日 (契約日) ~ 2023年2月8日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	2 回 ( 2016 年度)

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

##### ◆日々の保護者への誠実な対応が、信頼度の高さにつながっています

園は保護者と手を携えて子どもたちの成長を見守っていくことを大切に考えています。そのため保護者の意向を聞く機会を多く設けてニーズや課題を明確にし、改善につなげる風土が根づいています。保護者アンケートは行事後と年度末に実施しています。定期的保護者会、クラス懇談会、個人面談のほか、随時面談に応じ、職員からも積極的に声かけをしています。年度末のアンケート結果は開示し、園の見解や改善策も伝えています。このことから園に対する信頼度は高く、今回の利用者調査からも「責任感のある先生が多く信頼できる」(本園)、「子ども一人ひとりをよく見てくださり信頼している」(分園)など率直な感想が寄せられています。

##### ◆職員自らの気づきを実践につなげ、子どもとともに職員も育っています

職員一人ひとりが保育の中で得た気づきから、改善意識を持って目標を設定し、実践内容、振り返りまでを記録する活動を「慈愛レポート」と名づけ、本園、分園ともに全職員が個々に取り組んでいます。職員の経験値や大切にしている保育観などによって、気づきの視点はさまざまです。例えば、あるレポートには、配慮の必要な子どもにいていねいなかわりを重ねることで、心を解きほぐし、職員との距離を縮めていく過程が記録されています。寄り添うことで子どもの心が育っていく喜びを職員はかみしめ、この経験が保育スキルをさらに高めていきます。自らの気づきから生まれた保育実践により、子どもも職員も育ち合える取り組みになっています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

受審したことによりマニュアル整備等の課題点が明確になり、職員間でもそれらを共有し、今後のより良い運営に繋げていく一歩となりました。

コロナ禍で滞っていた地域交流の機会を増やし、地域に根付く保育園を今後も継続していきたいと思えます。

また、保護者の方々からの評価や温かいコメントが、職員一同の励みとなりました。今後も家族の皆様と手を携えて子どもたちの成長を見守ってまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり